

2026年11月12日

瀬谷駅前の商業施設にシニアが主役の
「相鉄 瀬谷駅前 街仲食堂」をオープン
幅広い世代が活躍する場を提供し、地域コミュニティーを活性化

相鉄ホールディングス株式会社

相鉄グループの相鉄ホールディングス㈱（本社・横浜市西区、社長・加藤 尊正）は、2027 年 3 月（予定）に、㈱KoKoRo-iki（所在地・横浜市旭区、社長・稲葉竜二）と提携して、相鉄本線 瀬谷駅北口の複合商業施設「スマイルストリート瀬谷」（所在地・横浜市瀬谷区）に、シニアが主役の飲食店「相鉄 瀬谷駅前 街仲食堂」（以下、同食堂）をオープンします。

これは、現在日本が直面している高齢化社会を見据え、相鉄線沿線におけるシニアの「居場所づくり」や交流の場の提供によるウェルビーイングの向上、地域の活性化につながる新たな価値の創造を目的にオープンするものです。

同食堂は、シニアが主役となり調理や運営を手がける飲食店です。農業が盛んな地元・瀬谷で採れた野菜などを使用し、おむすびや汁物、一汁三菜の定食、お弁当など、地産地消にこだわった横浜ならではの商品を提供する予定です。

運営は、神奈川県内で介護サービス事業を展開する㈱KoKoRo-iki が、「食」を通じてシニアが活躍するジーバーFOOD 事業を全国に展開している㈱ジーバー（所在地・宮城県富谷市、社長・永野 健太）とパートナー契約を結んで行います。シニアが活躍する場を提供することで、多世代交流や地域コミュニティーの活性化を目指します。

また、来年 3 月からは、相鉄本線 瀬谷駅・三ツ境駅付近で「２０２７年国際園芸博覧会（以下、GREEN×EXPO 2027）」が開催されます。地域の皆さまをはじめ、来場者の方にも立ち寄っていただける相鉄線沿線ならではの店舗づくりを行ってまいります。

相鉄ホールディングスでは、今後も相鉄グループの長期ビジョン「Vision2030」に基づき、選ばれる沿線の創造と盤石な事業基盤の構築を通じ、さらなる事業領域の拡大を図るとともに、「人生 100 年時代を“活き活きと”過ごせる沿線」の創造を通じて、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

概要は別紙のとおりです。





店舗・商品イメージ　※写真はイメージです。実際とは異なる場合があります。

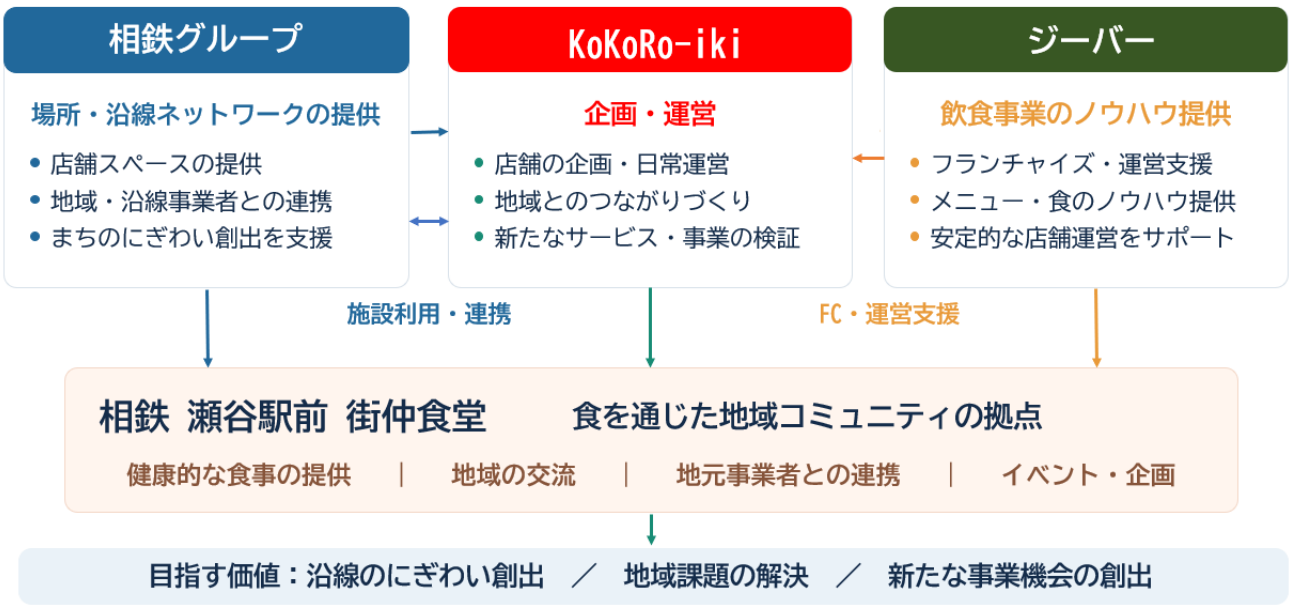
（別　紙）

「相鉄 瀬谷駅前 街仲食堂」の概要

1. オープン日
   2027 年 3 月（予定）
2. 目的
   日本が直面している高齢化社会を見据え、相鉄線沿線におけるシニアの「居場所づくり」や交流の場の提供によるウェルビーイングの向上、地域の活性化につながる新たな価値の創造を目的にオープンします。
3. 施設名称
   相鉄 瀬谷駅前 街仲食堂
4. 所在地
   横浜市瀬谷区中央 1 番 4 号
   スマイルストリート瀬谷 1 階
   相鉄本線「瀬谷駅」徒歩約 2 分
5. コンセプト
   シニアの活躍を通じて、沿線の暮らしと地域のコミュニティーを豊かにする
6. 各社の役割

相鉄ホールディングス	・地域の課題や住民ニーズを踏まえた、場所の提供および運営協力
KoKoRo-iki	・介護サービス事業者としての知見を生かした、店舗の運営管理
ジーバー	・全国のシニアコミュニティから得た知見を生かし、店舗立ち上げや運営を支援

【スキーム図】



【参　考】

■ジーバーFOOD とは

株式会社ジーバー（本社・宮城県富谷市）が展開する、シニアが食の作り手となって活躍し、地域に心温まる豊かな食体験をお届けしていく事業です。2022 年 11 月に仙台でスタートしたジーバーFOOD。これまで全国に 21 店舗の「街仲食堂」を展開、累計 600 名以上の地域のシニアの皆さんと一緒に美味しい手作りの料理を作って地域にお届けしてきました。

これからも日本全国に広げ、シニアの知恵と経験、そして地域の食材や食文化を掛け合わせて、地域が豊かになる食体験を作っていきます。（2026 年 10 月末現在）

相鉄グループの GREEN×EXPO 2027 Village 出展について

相鉄グループは、2027 年 3 月 19 日（金）から開催される「２０２７年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）」の Kids Village（キッズビレッジ）にて、「SOTETSU PARK（そうてつぱーく）」を出展します。

SOTETSU PARK のコンセプトは「ともだちとすみか」。「ともだち」は、ひとをはじめ身近に暮らす生きもの、「すみか」は、生きものそれぞれに適した住処を指し、生物と自然が影響を及ぼし合いながらも調和して暮らすフィールドを表します。子どもたちが「ともだち」に出会い、「すみか」で遊びながら触れていくことで、身近な生きものや自然を知り、守るアクションにつなげていくことを目指します。



©Expo 2027